

東郷地区 地域づくり懇談会 開催概要

- 1 日時 平成30年10月5日（金）19：00～20：10
- 2 場所 東郷地区公民館
- 3 出席者 地区出席者 13名
市出席者 4名（深澤市長、安本地域振興局長、平井環境局長、湯谷生活環境課参事）



4 テーマ 神谷清掃工場撤退後の対策について

5 概要

（地元あいさつ）

市長をはじめ、市の幹部の皆さまにご来訪いただき大変ありがたい。私は相互信頼が一番大事だと考えている。お互いの言い分のみを言い合うのではなく、相手の意見、考えを聞き、自分の正直な気持ちを話すような会にしたいと考えているのでご協力お願いしたい。

（市長あいさつ）

東郷地区の皆さまには平素より格別にお世話になっている。改めて感謝申し上げたい。

東郷地区地域づくり懇談会は2年ぶりの開催となる。今年から懇談会の進め方を変えさせてもらっている。会長の話にもあったように、私も相互の信頼関係というのが大切だと思っている。今日はざっくばらんな意見交換をさせていただき、将来のあり方をみんなで探していければと思っている。

（司会）

皆さまご存じのように、清掃工場が東郷地区から国英地区に移転される予定となっている。移転後、車や人の往来がなくなり寂れてしまうのではないかという心配から、本日のテ

ーマを「神谷清掃工場撤退後の対策について」とさせていただいた。現在、むらづくり協議会会長を中心に東郷地区地域振興協議会を立ち上げ、鳥取市とともに跡地活用について検討している。

(地元)

神谷清掃工場は、ここ数十年にわたり鳥取市のごみ焼却を一手に引き受けてきた。この跡地問題について、東郷地区住民は非常に大きな関心を持っている。焼却場の移転問題は歴代の市政では実現ができずにいたが、深澤市政となり移転が実現したことを深く感謝している。

先ほども話があったが、東郷地区地域振興協議会で跡地活用について鳥取市と協議を進めている。しかし、地元だけでは具体的提案をするのは難しいと感じている。できれば、鳥取市主導で協議をし、具体的提案を出していけたらと思っている。

一つ提言させていただくと、東郷地区は、東郷地区だけがよくなるような施設、活性化策を望んでいるわけではない。鳥取市にとって有効活用できるような知恵を出し、鳥取市と東郷地区がウィン・ウィンになるような提案をぜひ実現に向けて取り組んでいけたらと考えている。

(市長)

東郷地区の皆さまにおいては、鳥取市はもとより東部圏域が大変お世話になっていることに重ねて感謝申し上げます。

工場跡地が広大な荒れ地状態になることを懸念されているが、決してそうならないよう適切な管理をさせていただき考えであり、東郷地区、鳥取市、東部圏域にとって良かったと思えるような活用方策を地域と一緒に考えていきたいと思っている。鳥取市が主導的に進めてほしいというご意見もいただいた。将来を見据え、今まで以上に地域と連携しながら活用方策について考えていきたい。専門的な知見を必要な場面はコンサル等にも知見を求めることも必要と思う。地域の皆さんが良かったと思えるよう尽力していきたい。

(地元)

この度、東郷地区住民がどう考えているか把握するためにアンケートをとったが、なかなか考え方がまとまるものではない。ただ、今後3、4年の間に方向性を決めていきたいと思っている。東郷地区地域振興協議会を繰り返し開催し、地域と鳥取市で協力して、お互いにウィン・ウィンになる事業を企画したいと思っている。

(地元)

二点お聞きしたい。一点目は、東郷地区が半世紀にわたって受け入れてきた可燃物処理工場が、深澤市政にて移転されることになり、地区住民は大変喜んでいる。今日は地区の代表が出席しているので、市長の思いを聞かせていただき、住民に伝えたいと思う。二点目は、跡地利用の問題である。今年3月の市長選挙における深澤市長の公約の中に、人づくりの中

で子どもや高齢者、障がいのある方などの居場所づくりをする、地域食堂を支援するとあった。跡地利用の問題にひっくるめて地域食堂を検討していただきたい。

(市長)

半世紀にわたり、東郷地区の皆さまには鳥取市はもとよりこの圏域のごみの受け入れについてご英断をいただき、心より感謝申し上げます。市町村行政は様々な課題がある。その中でも、水とごみが一番重要だとよく言われる。全国にごみ処理等に苦慮されておられる中、東郷地区のご英断により、鳥取市はもとより東部圏域の生活がきちんとしたものになっているということを発信し、次の世代にも引き継いでいきたいと思っている。

公約の中で、人づくりということで地域食堂の取組みをあげており、現在およそ17か所のこども食堂、地域食堂を目標に掲げているが、もう少し増えてもいいのではと思っている。ただ食事を提供するというのではなく、地域の方が立ち寄っていただき、皆で一緒になって運営をしていくきっかけづくりになればと思っている。全国に先駆けて充実を図っていきたいと考えており、東郷地区でもやってみようということがあれば、市も支援させていただこうと思っている。

(司会)

今日は、若い方にも来ていただいているので、意見を述べていただきたい。

(地元)

私は東郷に住んで7、8年くらいであり、外からの目線で感じたことを話したい。周りには東郷のことを知らない人が多く、神谷清掃工場のあるところと言われ分かる、また知っている方でも工場があるから小学校が統合せずに残っているところといったネガティブなイメージを持たれていることを悔しく感じている。今日の会の参加者が少ないこともそうだが、住民の意識はまだ低いのかなと思っている。これからの将来を担っていく若い世代が、同世代の意見をもっと聞き、地域に反映させていくことが大事である。新しい目線で意見を言っていきたいと思う。

新しいNPOを作り、民間の事業者と組んで東郷の交流人口を増やしていこうと取り組んでおり、東郷に住んで良かった、東郷小学校に行きたいと言ってもらえるよう頑張っているが、なかなか難しいと感じている。

(市長)

現在、人口減少や、子どもの数も減ってきている中で小学校を維持していくために、地域の方の考えを尊重し取り組んでいる。小規模校転入制度も一つの方策であり、東郷小学校に魅力を感じて通学している方もおられる。

次世代を担っていくのは若い世代の方だと思っており、ストリートミーティングといって、私が直接出向いて、大学生、中学生など様々な方の意見を聞かせていただく取組みを行っており、続けていきたいと思っている。機会をとらえ、意見を聞かせていただけたらと思

う。

(地元)

東郷地区公民館は地域の避難場所になっている。ハザードマップを見ると、東郷地区公民館横の谷から土砂流出があるエリアであり、奥にため池もあることがわかる。ため池と東郷地区公民館の間にちょうど神谷清掃工場があり、土石流などが起き、ため池が決壊した場合、工場は砦となる位置にある。神谷清掃工場跡地は、ポジティブな役割、例えば砦の役割を持たせつつ、防災に関する施設、防災教育ができる施設に転換していければ、地域を守ることにもつながるし、教育面で子どもにも伝えていくことになるから人づくりにもつながると思っている。一つの考えとして提案したい。

(市長)

一つの考えということで承った。イエローゾーンやレッドゾーンに指定されていても、直ちに災害が発生するというわけではない。ため池も、特に集落等が近いところは決壊しないよう常時状況を把握し、必要に応じ改修している。心配されて備えていただくことは良いことだが、今すぐ危険であるという状況ではないのでご安心いただきたい。

防災に関する施設に活用することも一つの考えと思う。清掃工場は非常に堅牢で、耐震性等も十分である。操業を停止した後でも何か活用できないか、地域の皆さんと一緒に検討させていただければと思う。

(司会)

東郷地区地域振興協議会でも、清掃工場を取り壊すか、何か活用する方法がないか、鳥取市と検討している。大変良い意見だと思う。

(地元)

現在の住民は神谷清掃工場とともに生きてきたが、子ども世代は工場があったこと、撤退することも記憶に残らないかもしれない。今後どういう事を子どもたちに引き継いでいこうかと考え、活動を行っている。

東郷地区は人口減少が非常に激しく、このままいくと500人を切りそうである。地域をどうやって成り立たせるか考えていかないといけない。先ほども話があったが、東郷にはこれといって有名なものがない。今までは神谷清掃工場がある東郷として覚えられていたのかなと思う。工場移転後に、東郷のPRとなるようなものができたら良いと願っている。清掃工場は立地条件が良い場所に建設される。神谷清掃工場は立地条件が良かったということなので、それをうまく活用し、少しでも人が行き来できるようなものができたらいいと思っている。また、他県、他市での清掃工場跡地活用事例があれば教えていただきたい。

(市長)

末恒地区に不燃物処理場がある。一部埋め立てが完了したところは整地し、グラウンドゴルフ場として活用している。併せて、ごみ処理施設として環境問題に関心を持ってもらう契

機になる施設として活用している。全国にも様々な活用事例があると思うので、改めて調べてみたいと思う。

（環境下水道部環境局長）

工場跡地活用の事例は、まだ具体的に調査できていない。これから調査させていただきたい。

最初に地元から、市の主導で跡地活用方策を考えてほしいという話をいただいた。地元だけで考えてもまとまりが見つからないということはあると思うし、市が良い方向に主導していくのは必要かと思う。専門部会を立ち上げるということで話を伺っているが、そういった場で掘り下げて案を練っていく作業は必要である。市もそこに入り一緒に考えていきたい。

東郷地区には何も無いという話があったが、多くの自然があり、人口も多すぎないという環境は、まちづくりをしていく上で良いモデルケースだと思う。まちづくりと併せて、これからの将来を見据え、地区のあり方の中で工場跡地活用を考えていくことは夢があることである。ぜひ一緒に考えていきたい。具体的な方向性が見えてきた後にコンサル等に助言を求めていくことになろうかと思う。

（地元）

工場跡地を活用してどういう風に発展したらいいか、交流人口が増える方法は全く煮詰まっていない。発展させるには人口が増えないといけませんが、鳥取市、東郷地区も人口が減っている状況である。東郷地区は準農村地帯で都市計画区域外であり、田一つとっても動かすことができない中、何ができるのか、市からの提案が欲しい。

この間、水路が埋まったので水路の清掃をした。準農村地帯で田しかできないのだから、受益者負担無しで全て市が掃除してくれないのかと思う。

東郷地区が何をすればいいのか、住民はまだ何をすればいいのかわかっていない状況なので、市で提案していただきたい。

（市長）

地域で水路の管理等を行うことが難しくなっている地区も増えてきており、課題になっている。一つに、共生の里の取り組みを行っており、佐治町では水路の管理等も企業に手伝っていただき、地元と一緒に取り組んでいる。人口減少や少子高齢化が進んでいく中で、従来の方法では地域を維持することが難しくなっており、様々な方法を考えていかないといけない。課題として受け止め取り組んでいきたい。

他自治体の跡地活用事例を研究し、東郷地区にふさわしい活用方策を一つのたたき台として市から提案することも一つの方法と思う。それをもとに具体的な議論をさせていただく必要もあると考えている。

人口減少も進んでおり、鳥取市はもとより国も2008年をピークに急激に減少に転じている。国でも地方創生の取り組みを進めているが、地方でも、自分たちがどうしたら地域が持続できるか真剣に考え、様々なことをやっていく必要がある。大変困難な課題だが、人口が

これ以上減らないようにするために、様々な分野の方と力を合わせてやっていくことが求められていると思う。しっかりやっていきたい。

(地元)

国英地区清掃工場の稼働の契約が終了する30年後、東郷地区に再度工場を建てないかという提案をさせていただきたい。技術が進歩し、ごみが資源ごみと呼ばれたり、生ごみが堆肥になったりとごみが再生される時代になった。国英地区では、燃料熱を利用した発電で災害発生時に自家発電のできる避難施設ができるようである。東郷地区にはため池もあり、上手に利用すれば災害時にトイレの水で困らないのではないかと思う。移転問題の大変だった労力とお金をこれから30年後の再稼働に向けて使い、再生エネルギー工場、研究所、防災拠点、公園等を整備し、市民の憩いの場として開発してはどうだろうか。地区の方々の賛同が得られた後の提案となるが、賛同が得られた場合、鳥取市は提案として考えていただけるのかお聞きしたい。

(市長)

可燃物処理施設の寿命は25年から30年とされており、国英地区の皆さんも30年後は他地域に移転してほしいと覚書をされた上でこの度受け入れていただいた経緯がある。

東日本大震災後、原発の問題も出てきて、エネルギーをどう確保していくか大きな課題になっている。その中で、可燃物処理施設はエネルギープラントとして安定的に発電ができる施設である。新しい国英地区の施設は神谷清掃工場より少し規模が小さいが、発電効率がよくなっており、ごみを焼却して発電した電気は施設の維持管理に使い、さらに余った分を売却して収入となる状況である。また、防災上も災害時には避難できる施設となる。

恐らく将来は、防災拠点、市民の憩いの場として処理施設一帯を整備するという構想も現実的なものとなってくる。30年後は更に技術が進歩していく。ただ、30年後も処理施設は必要であると思うので、東郷地区で再度処理施設を受け入れていただくということも一つの構想として意見交換させていただければと思う。

(地元)

神谷清掃工場は、取り壊すには非常に惜しい堅牢な施設である。移設後、国英地区工場に一点集中という計画であるが、バックアップ施設はあっても良いのではないかと思う。神谷清掃工場をいざというときにバックアップする施設として留保しておくのも一つの施設利用と思う。ただ、それだけの為においておくのはもったいないので、話に上がっていたような防災物資の物流拠点にしていくということも考えられる。人の流れがあれば物が流れ、お金の流れにつながっていく。そうすれば新しい動きが出てくると思う。30年後の結果をただ待つのではなく、鳥取の神谷から何か新しいイノベーションを発信していければ良いのではないか。そのためには人が必要であり、選挙公約にもある人を育てることにもつながる。そうすれば家族が増え、人口も増えていくことになる。東郷だけでなく鳥取市全体を巻き込んでいく形で、その中で東郷が責任を担っていくようなプランを立てていければと思ってい

る。

(市長)

バックアップ機能は必要だと思う。平成13年当時は、東部圏域に2つの施設で可燃物処理をしていこうという構想があった。それから、分別等によりごみの量も減ってきたこと、自動車道の整備により東部圏域の交通アクセスが良くなり1か所に集中した方が合理的だということで方針が変わり、2つの工場を1つにして国英地区に建設することになった。ただ、この広い圏域で1つというのは稼働できなくなった場合にどうするのかという問題が出てくる。神谷工場と同様、国英地区の施設も2つの炉があり、メンテナンスしながら片方ずつ稼働させる形で運営をしていくこととなる。

また、30年後を待つのではなくイノベーションをここで発信すべきではないかという意見もいただいた。鳥取西道路も来年中には鳥取道とつながる。そうしたことを一つの転機として、鳥取のまちづくり、圏域の発展を考えていく時期にあると思う。東郷地区はもとより市全体で、東部圏域全体でどのようにしていくべきかという視点で考えていくことは非常に重要なことだと思う。

(司会)

東郷地区としては様々な意見があるが、30年後に東郷地区に新施設を建てるという意見にまとまったら、鳥取市とも協議を進めていきたい。

(地元)

一つ要望したい。この度の台風で野坂川、徳尾付近が氾濫区域となった。ここ有富川は土砂が堆積しているため河床掘削の要望をあげているが、県に伝えているという回答ばかりで一向に解決しない。東郷小学校の上手側50mぐらいのところの川の中に木が10本くらい生えていて、県に要望しているが切ってもらえない。市も、県に要望を伝えるだけでなく、現地を確認するなどできないか。生命、財産の問題なので、もう少し前向きに行動を起こしていただきたい。

(都市企画課補足)

鳥取県と地域づくり懇談会の内容を協議したうえで、地元、県、市の三者で現地確認を行うこととします。

(司会)

回答と併せて、閉会のあいさつをお願いしたい。

(市長あいさつ)

地域づくり懇談会は2年に1回だが、東郷地区では振興協議会を立ち上げられている。東郷地区はもとより、鳥取市、東部圏域が発展していくにはどうしたらいいかご意見をいただきたいと思っている。

先ほど要望事項をいただいた。河床掘削についても国で予算化してもらうように、国土交通省に申し上げる予定である。また、中核市市長会にて郡山市長から河川掘削するための予算を国につけてもらうよう意見が出て、既に国に要望している。中国治水協議会など、様々な機会をとらえ、要望していこうとしている。しっかりとやっていきたい。